

創建

そうこん

巻頭言:千葉正裕・1

修士論文発表会/卒業論文発表会・2

修了式・卒業式表彰者・3

卒業設計展/学術論文/教室ニュース・4

2023・3・20 VOL. 58 NO. 3 (通巻 182 号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

今年1月、米紙ニューヨーク・タイムズに「2023年に行くべき52カ所」の一つとして、ロンドンに次いで2番目に紹介された、私の故郷、岩手県盛岡市。そこに、ある有名な桜が存在する。その名も『石割桜』。円周約21mの岩を割って育った、樹齢350年から400年と言われるエドヒガンザクラで、国の天然記念物にも指定されている、日本でも珍しい桜だ。石割桜は盛岡地方裁判所構内にあるのだが、どうやら土の中から石を割って伸びたのではなく、落雷によってできた石の割れ目に桜の種子が入り込んで成長したらしい。いずれにしても逞しい光景であることは間違いない。桜も好んでその場所を選んだわけではないだろうが、生きるためにはどうにかして困難な状況を乗り越えていかなければならない。実は1932年に裁判所が火災に見舞われ、石割桜も焼失の危機にあったが、庭師・藤村治太郎消防団員が必死に放水して守ったという。人の助けも借りながら、そこで350年以上も生き続けているのだから、人間には到底真似のできない、神のなせる業ということだろうか。

所変わって、ここ16号館204号室にも、逞しく生きている者たちがいる。その名は『ピンポンパール』。ピンポン玉のような丸々とした体型と、真珠状に輝く美しい鱗をもつ金魚だ。数年前から研究室で金魚を飼い始めて、彼らは3代目になる。水質をきれいに保つことが重要で、水槽の掃除が欠かせないのだが、ゼミ生の女子学生らが率先して掃除係を引き受けてくれている。ありがたいことだ。ピンポンパールもまた、自ら好んでこの場所を選んだわけではないが、どうにかして生きていかなければならない。だから必死だ。私が水槽に近づくと寄ってきて、「餌をくれ!」と猛アピールする。ただ寄ってくるだけではなく、口でピュッと水面を鳴らして伝えようとするのだ。人

間に耳がある、音に反応することが判ったのだろうか。相手との意思疎通を図ろうとする、これも一種のコミュ力と言えるかもしれない。

人間には『言葉』というコミュニケーションの道具がある。相手の『言葉』を聞いて、自分の考えや意思を『言葉』で返して意思疎通を図っている。ただし、コミュ力は単なる会話力ではない。大事なものは、『察する力』だ。例えば、重い荷物を運んでいる人に「手伝いましょうか?」と声を掛けたとしよう。「大丈夫です」と言われたら、その言葉通りに受け取って手伝わない人と、「この人は遠慮して大丈夫と言っている」と察して手伝う人がいるだろう。その人の状況や言葉の裏に隠された心情までを察して読み解くことが大事

ピンポンパールに学ぶ

『コミュ力』

教授 千葉 正裕

なのだ。『察する力』は物事の本質を見極める力でもあり、様々な場面、状況の中で、幸運を掴みとるための必須アイテムとも言える。ピンポンパールにできえ備わっている『察する力』が、今の人間社会では失われつつあるように感じるのは、私だけではないだろう。

『察する力』が鈍っているということは、すなわち、『感じる力』が弱まっていることにもつながる。感じることの一つに『感謝』がある。人はありがたいと感じた時に『感謝』の念を抱き、それを「ありがとう」の言葉にして相手に伝える。前述のような重い荷物を運んでいる人を手伝った時、きっと相手から「ありがとう」と言葉を掛けられるだろう。感謝されるのは、実に清々しくて気持ちのいいものだ。だから、みんな誰かに助けてもらったり、良くしても

らった時には、その相手に「ありがとう」と言いたくなるはずである。が、そうでもないようだ。感情を表に出すことが恥ずかしいのだろうか。そもそも「ありがたい」などと思っていない、当たり前のことと思っているのかもしれない。とは言え、今の世の中を生きていくには、人と上手く付き合っていかなければならないことは確かだ。特に、建築業界という場所に身を置く者にとって、言葉を駆使して人間関係をいかに構築できるかが最大の成功の鍵を握っていると言っても過言ではないだろう。

アメリカの心理カウンセラーであるレス・ギブリンは、自身の著書の中でこのように説いている。「成功と幸福をもたらす最大の要素は、人間関係の技術である。人間関係の技術をしっかりマスターすれば、成功への道のりの約85%と幸福への道のりの約99%の地点に到達することができる」。さらに、こんなことも書いてある。「よい人間関係とは、自分が求めているものを手に入れるのと引き換えに、相手が求めているものを与えることだ」。つまりは、相手が何を求めているのか、相手を思い遣ることが大切なのだ。感謝すれば、感謝される。人を敬えば、自分も尊敬される人になれる。『察する力』や『コミュニケーション能力』も、人間関係の技術とすれば、いろいろな人と関わらなければ身につけることは難しいだろう。よりよい人間関係を築くとは、そういうことだ。

レス・ギブリンの著書には、「人間の習性をよく理解して初めて、成功と幸福を手に入れるきっかけを掴むことができる」ともある。今日も水を鳴らして、必死にアピールしてくる水槽の中の主は、頼りにされるのが嬉しいという私の習性に気づいたのかもしれない。だから、「さっきあげたでしょ!」と言いつつ、また餌を与えてしまう。「先生、やり過ぎですよ!」と女子学生に注意されながらも……。

工学部学術研究発表会、修士論文発表会／卒業論文発表会

工学部学術研究発表会

第65回日本大学工学部学術研究報告会 | 開催日:令和4年12月3日(土)/場所:日本大学工学部70号館

高圧注入装置及び直接注入方式によるコンクリートのCO₂固定化の検討 | ○河合奎亮・Sanjay PAREEK・藤倉裕介
コンクリートひび割れの自己治癒を目的としたバクテリアを含有する改良型の混和材に関する2種の検討 | ○川崎浩長・春木満・Sanjay PAREEK
ポリマーセメントモルタル被覆コンクリートの屋外暴露試験―その1 試験概要― | ○齋藤俊克・田中拓弥・出村克宣
調合因子と材齢が再乳化形粉末樹脂を用いたポリマーセメントモルタルの電気抵抗率に及ぼす影響 |
○荒木裕人・福井拓也・神田利之・若杉三紀夫・齋藤俊克・出村克宣
ポリマー混入ポーラスコンクリートの圧縮及び曲げ強度性状 | ○田中秀暉・齋藤俊克・出村克宣・日比野巧
吸水調整材による下地処理がポリマーセメントモルタル被覆コンクリートの中性化抵抗性に及ぼす影響 | ○田中拓弥・齋藤俊克・出村克宣・日比野巧
2022年福島県沖地震の災害調査報告と復旧方法の問題点 | ○佐藤温起・堀川真之
建築構造における機械学習の有効性に関する研究―深層強化学習を用いた2次元トラスの最適化― | ○稲葉雄大・野内英治
個別要素法による骨組構造物の解析に関する基礎的研究 | ○長島周・野内英治
既存建物の減衰評価手法とばらつきに関する研究 | ○水野寛仁・日比野巧
ボルト孔直角度を考慮したレーザ加工ノッチを有する高力ボルト接合部の接触解析 | ○三沢健介・浅里和茂
鉄骨置屋根構造における斜交トラスの応答性状 | ○木村悠人・浅里和茂

一般廃棄物の焼却時の余熱利用の実態に関する研究―福島県内のごみ焼却施設を対象として― | ○浦田陽太・浦部智義
ログハウス型仮設住宅の移設再利用に関する施主の評価の研究―東日本大震災後に福島県内に建設された応急仮設住宅を対象として― |
○奥山翔太・浦部智義・滑田崇志・高木義典・早川真介・田中重夫
施設職員による保育施設の評価に関する研究―同一法人の5つの保育施設を対象とした調査分析― | ○池田チムル・浦部智義・高木義典
国内におけるデジタルファブリケーション施設の運用実態に関する研究 | ○園田駿希・宮崎渉
福島県郡山市における古民家に対する一般市民の認識と今後の展望 | ○井上真聖・山岸吉弘
喜久田村と隠津島神社参道の変遷に関する歴史的な研究 | ○渡邊七音・山岸吉弘
白河市中心市街地の蔵に着目した景観構造に関する研究 | ○横井誉大・市岡綾子
福島県内庁舎における地域に開かれた空間特性と利用状況 | ○吉澤伊代・市岡綾子
現存天守を対象とした火災安全性の研究―彦根城を対象として― | ○佐藤小百合・森山修治
「開かれた美術館」に関する建築史的研究―その1 日本の公立美術館における概念の形成と変容― | ○鈴木ひなた・速水清孝
「開かれた美術館」に関する建築史的研究―その2 日本の公立美術館の飲食部門に注目して(1945-85)― | ○川島由梨・鈴木ひなた・速水清孝
鉄道騒音の評価方法に関する研究―走行パターンの影響に関する検討― | ○石橋拓巳・濱田幸雄
伝達関数法における試験体の構造的変化性状による測定結果に及ぼす影響についての研究 | ○高野夏樹・濱田幸雄

令和4年度 日本大学大学院工学研究科建築学専攻 修士学位論文発表会 | 日時:令和5年2月10日(金)/会場:70号館7045教室

- 一般廃棄物の焼却時の余熱利用の実態に関する研究―東北6県のごみ焼却施設を対象とした分析― | 浦田陽太 (指導:浦部智義教授、宮崎渉専任講師)
- 東日本大震災後に福島県内に建設されたログハウス型仮設住宅の移設再利用の評価の研究―移設再利用前後の建築主の意識を中心とした分析― | 奥山翔太 (指導:浦部智義教授、市岡綾子専任講師)
- ポストピークをシミュレートする数値解析モデルの開発に関する基礎的研究 | 上村岬 (指導:堀川真之専任講師、浅里和茂教授)
- 斜交トラスを有する鉄骨置屋根構造体育館の応答性状と屋根面挙動 | 木村悠人 (指導:浅里和茂教授、堀川真之専任講師)
- 現存天守を対象とした火災安全性の研究 | 佐藤小百合 (指導:森山修治教授、濱田幸雄教授)
- 「開かれた美術館」の概念に関する建築史的研究―20世紀後半の日本の公立美術館を中心に― | 鈴木ひなた (指導:速水清孝教授、市岡綾子専任講師)
- 国内におけるデジタルファブリケーション施設の利用実態に関する研究 | 園田駿希 (指導:宮崎渉専任講師、浦部智義教授)
- 吸水調整材塗布後ポリマーセメントモルタルで被覆するコンクリート表面被覆工法の性能評価 | 田中拓弥 (指導教員:齋藤俊克准教授、サンジェイ・ナリーク教授)
- レーザ加工ノッチが高力ボルト接合部の性状に与える影響 | 三沢健介 (指導:浅里和茂教授、堀川真之専任講師)
- 既存建物の減衰評価手法とばらつきに関する研究 | 水野寛仁 (指導:日比野巧専任講師、浅里和茂教授)
- 揺れの定量的評価と人口知能を用いた緊急地震速報システム開発に関する研究 | 山川李杜 (指導:ガン・ブンタラ教授、野内英治准教授)
- 喜久田村と隠津島神社参道の変遷に関する歴史的な研究 | 渡邊七音 (指導:山岸吉弘専任講師、速水清孝教授)

令和4年度 日本大学工学部建築学科 卒業研究発表会 | 日時:令和5年2月7日(火)/会場:70号館1階7014教室(五十嵐ホール)

- 市営住宅の整備・更新に関する研究―その1 須賀川市と白河市の比較分析― | 柳沼佳南子 (指導:浦部智義教授)
- 富岡町の帰還者からみた地域資源に関する研究―栄町地区健康散歩マップ制作からみた復興の姿― | 齋藤将歩 (指導:市岡綾子専任講師)
- 大学内のファブリケーション施設の整備実態に関する研究 | 有馬司・大川知樹 (指導:宮崎渉専任講師)
- 車椅子使用者用便房の利用動作及び空間寸法の有効性に関する研究 | 高嶋貫太郎・下山田彩人・高坂玲音・清水川大翔 (指導:山田義文准教授)
- 文化財建造物を対象とした火災安全性の研究―円通三匠堂を対象として― | 脇坂美穂 (指導:森山修治教授)
- いわき市の宝篋印塔に関する研究 | 橋本朋乃 (指導:速水清孝教授)
- 起雲閣を歴史的観点から見た建築様式の研究 | 佐藤詩恩 (指導:山岸吉弘専任講師)
- 地域活性化における制度利用に関する研究 | 黒坂騎羅弥・吉田歩香 (指導:廣田篤彦教授)
- 個人属性を考慮した遮音性評価手法の確立に関する研究 | 高野直人・船橋龍生・大多和徳樹・松浦岳・原克弥 (指導:濱田幸雄教授)
- ポリマーセメントモルタルの性能評価―PCMの被覆厚さ及び吸水調整材の固形分量が基材コンクリートの中性化抵抗性に及ぼす影響― | 西陸登 (指導:齋藤俊克准教授)
- タイル外壁プレキャストコンクリート工法における相変化材料(PCM)の利用に関する研究 | 野末一輝 (指導:Sanjay PAREEK 教授)
- 工学部5号館の地震時応答性状 | 安部乃愛 (指導:浅里和茂教授)
- FEM解析による曲げ圧縮破壊する鉄筋コンクリート梁の信頼性評価 | 新田太一・遠藤豪人・砂田大地 (指導:堀川真之専任講師)
- 工学部70号館(教室棟)の振動性状に関する研究 | 栗原幸紀 (指導:千葉正裕教授)
- 既存建物の減衰評価手法とばらつきに関する研究 | 瀬戸朝陽・小林靖征・仙波優作 (指導:日比野巧専任講師)
- 床版解析に関する考察―ナビエの方法と交差梁法による単純支持床の変位解の比較― | 津之浦泉 (指導:野内英治准教授)
- テンセグリティ構造を用いた細胞の振動特性―細胞のゆらぎに関する数値的研究― | 矢嶋竜成 (指導:Buntara S. Gan 教授)

卒業論文発表会

令和4年度 修了式・卒業式における表彰者

令和5年3月25日

高藤賞	修士論文	吸水調整材塗布後ポリマーセメントモルタルで被覆するコンクリート表面被覆工法の性能評価 田中拓弥(指導:齋藤俊克准教授)
北桜賞	修士論文	「開かれた美術館」の概念に関する建築史的研究―20世紀後半の日本の公立美術館を中心に― 鈴木ひなた(指導:速水清孝教授)
桜建賞	卒業設計	まちを育む遺構群―時を経たコンバージョン― 黒田大翔(指導:浦部智義教授)
桜建賞	卒業論文	工学部5号館の地震時応答性状 安部乃愛(指導:浅里和茂教授)
	卒業論文	相変化材料(PCM)混和コンクリートの熱特性およびタイル外壁プレキャストコンクリート工法における相変化材料の利用に関する研究 野末一輝(指導:SanjayPAREEK 教授)
	卒業論文	文化財建造物を対象とした火災安全性の研究―円通三匠堂を対象として― 脇坂美穂(指導:森山修治教授)
	卒業論文	車椅子使用者用便房の利用動作及び空間寸法の有効性に関する研究 高嶋貫太郎・下山田彩人・高坂玲音・清水川大翔(指導:山田義文准教授)

学長賞	深澤愛梨
優等賞	深澤愛梨・糠谷勇輔・黒田大翔

日本大学 工学部長賞	学術・文化部門	阿部佳穂 第26回日本建築家協会(JIA)東北建築学生賞(日本建築家協会東北支部)奨励賞 「みやぎ建設総合センター賞」 出展作品「記憶の方舟～6次産業による地域の活性化～」
---------------	---------	---

糠谷勇輔
第26回日本建築家協会(JIA)東北建築学生賞(日本建築家協会東北支部)優秀賞
出展作品「心の器」

園田駿希
「JSCA東北支部 第8回構造デザイン交流会2022」構造デザインコンテスト最多得票賞
出展作品「築輪」

三沢健介
「JSCA東北支部 第8回構造デザイン交流会2022」構造デザインコンテスト最多得票賞
出展作品「築輪」

校友会賞	高柳朗 日本大学工学部体育会第53代委員長 兼 應援團第66代團長 体育会所属団体の統括・歳末助け合い運動の企画及び実施など
------	---

蛭澤康海 | 日本大学工学部学術文化サークル連合会第49代委員長
学術文化サークル連合会所属団体の統括・学内美化清掃の企画及び実施など

平井涼雅 | 第71回日本大学工学部北桜祭実行委員会副委員長
北桜祭実行委員会の指揮、体育会及び学術文化サークル連合会との連携など

令和4年度 卒業設計展およびコンクール・展示会等出展作品

外部卒業設計展示会・優秀作品展示会等出展作品一覧

日本建築学会「全国大学・高専卒業設計展示会」

黒田大翔(指導:浦部智義教授)

まちを育む遺構群——時を経たコンバージョン——

日本建築家協会「東北学生卒業設計コンクール2023」

阿部佳穂(指導:浦部智義教授)

生業を醸す——海と海拔460m——

レモン画翠「第45回学生設計優秀作品展」

白銀瑤子(指導:浦部智義教授)

高島町駅2000m再開発——都市における新しいごみ処理施設の提案——

近代建築「卒業製作2022」

第7回日本大学工学部建築学科卒業設計 JIA 福島地域会賞

鈴木七緒(指導:浦部智義教授)

人の森:シェアステーション——シェアリングエコノミーから考える新しい公の空間——

日本インテリア学会「第29回卒業作品展」

安藤夢華(指導:浦部智義教授)

みずいろの空間——表裏が一体となった街区づくり——

優秀作品展出展作品(左記作品の他)

・石川陵介(指導:宮崎渉専任講師)

巡る情景——散居と共に生き、人々に寄り添う集落拠点の創出——

・榎本祐希(指導:浦部智義教授)

最後の舞台——伝統文化の再解釈——

・川野竜(指導:浦部智義教授)

別荘文化——持続可能への建築的試み——

・関祐介(指導:浦部智義教授)

商いの幕が上がる時——時代と景観に馴染む商店街——

・糠谷勇輔(指導:宮崎渉専任講師)

まちを紡ぐ

・能多玖梨花(指導:浦部智義教授)

下町生活、再生日記——「歩」がつながるまち——

・山内楓唄(指導:浦部智義教授)

小さなターミナル——まちが軌道に乗る——

・吉田雄大(指導:浦部智義教授)

一次産業の造形——牧畜と農がシンクロする舎——

学術論文／教室ニュース

学術論文

- ・山田義文・王健嬌「サービス付き高齢者向け住宅におけるサービス実態把握と課題——職員に対するアンケート調査と建築特性に基づく分析——」日本建築学会住宅系研究報告会論文集 Vol.17, pp.237-245, Dec 2022.

教室ニュース

- 廣田篤彦教授は、10月15日に福島県より土地収用事業認定審査会委員を委嘱され、会長に選出された。
- 市岡綾子専任講師は、白河市より親子景観体験事業の講師を依頼され、11月6日に市岡研究室の学生とともに親子景観体験の支援を行った。
- 田中秀暉君(齋藤研・M1)は、11月14日に2022年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会における研究発表「各種ポリマーセメントモルタルを結合材とするポーラスコンクリートの圧縮及び曲げ強度」に対して、材料施工部門若手優秀発表賞を受賞した。
- 浦部智義教授と宮崎渉専任講師は、「県産材でつくる次世代型木造建築——豊かな森林を活かし切るために——」と題し対談した記事が11月25日に発刊された「ふくしまの家づくりの本2023年版」に掲載された。
- 浦部智義教授は、11月30日に安積黎明高校で行われた「『課題探究シンポジウム』社会の諸課題に目を向ける——高校生に知ってほしい地域共生社会の課題——」において、「ロハスと建築」と題して講演しシンポジウムに登壇した。
- 市岡綾子専任講師は、12月1日に伊達市市民活動支援センター主催イベントにおいて「保原チンチン電車:地域資源を活かそう」と題し講演された。
- 浦部智義教授は、12月6日に行われた第22回産学官連携フォーラム「森・まち・産業を支える建築の作り方——ふくしまでの産・学・官連携の取り組み——」において、「新しい木構法の開発・展開の契機となった3.11」と題して講演しシンポジウムに登壇した。
- 市岡綾子専任講師は、1月5日に二本松市より二本松市立地適正化計画検討委員会委員を委嘱された。
- 市岡綾子専任講師は、1月25日に福島市より消防本部・福島消防署整備事業基本設計者選定審査委員会委員を委嘱された。
- 廣田篤彦教授は、1月31日に郡山市より空家等対策審議会委員を委嘱され、会長に選出された。
- 浦部智義教授は、復興知イノベ事業「産学官民の連携による『ロハスコミュニティ』の構築と実装」の日本大学工学部代表として、1月31日に葛尾村の大学連携会議において2022年度報告を行った。
- 鈴木七緒さん(浦部研・4年次生)は、作品「人の森:シェアステーション——シェアリングエコノミーから考える新しい公の空間——」で2月9日にJIA 福島地域会賞を受賞した。
- 山田義文准教授と山田研究室は、郡山市と協働でユニバーサルデザイン研修動画を作成した。研修動画は、2月14日から郡山市公式YouTubeチャンネル再生リスト「ユニバーサルデザイン研修」で公開されている。
- 市岡綾子専任講師は、2月16日に福島県人権ユニバーサルデザイン推進事業オンラインセミナーにおいて「ユニバーサル社会に向けて」と題し講演された。
- 阿部佳穂さん(浦部研・4年次生)は、作品「生業を醸す——海と海拔460m——」で2月24日に行われたJIA 東北学生卒業設計コンクール2023で最優秀賞を受賞した。

編集後記:本号は卒業関係の情報が主となりました。私は日大工学部を卒業して20数年になります。卒業後も郡山に残ったことと思いますが、大学での友人や先輩、後輩、そして先生が現在の交流関係のベースになっています。(高橋)

お願い:編集室までご意見・ご感想をお寄せください。
ceb.soukon@nihon-u.ac.jp